

2024 SYLLABUS

教職課程

北海道情報大学

【 目次 】

教育原理	3
教育心理学	6
教職概論	9
教育制度論	12
特別支援教育論	15
教育課程論	19
道徳教育の理論と実践	22
教育方法論と総合的な学習の時間の指導法	25
ICT 活用の理論と実践	28
特別活動論	30
生徒指導	33
学校教育相談	36
進路指導	39
教育実習Ⅰ	41
教育実習Ⅱ	44
教育実習Ⅲ	47
教職実践演習（中・高）	50
情報科教育法Ⅰ	53
情報科教育法Ⅱ	56
商業科教育法Ⅰ	59
商業科教育法Ⅱ	62
数学科教育法Ⅰ	65
数学科教育法Ⅱ	67
数学科教育法Ⅲ	70
数学科教育法Ⅳ	73

教育原理 Principles of Education

担当教員	渡邊 仁 (859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP171
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		1 年	後期
先端経営学科		必修		1 年	後期
情報メディア学科		必修		1 年	後期
授業概要					
<p>-教育の基本的概念</p> <p>-教育の歴史・思想</p> <p>-生徒・教師・家庭・学校の相互関係</p> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が経験した教育が全ての教育ではない。そのため、教育の基本的概念・歴史・思想の理解を通して、多角的な視点で教育を捉え、教育の理念を考える機会とする。さらに、生徒・教師・家庭・学校の相互関係を考えるきっかけを作る。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>教育の基本的概念・歴史・思想について理解を深めることで、教育を多角的な視点で捉え、教育の理念を説明できる。また、生徒・教師・家庭・学校の相互関係を理解する。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	「教育とは何か」について事前学習をして下さい。			2.0
	授業	教育と価値観 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	「自分と他学生の教育観の違い」について事後学習をして下さい。			2.0
2	事前学修	「性善説」「性悪説」について事前学習をして下さい。			2.0
	授業	性善説と性悪説 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	「性善説の例」「性悪説の例」について事後学習をして下さい。			2.0
3	事前学修	「校則」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	ディベート（校則について） グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	生徒が主体となって「校則を改正した例」について事後学修して下さい。			2.0
4	事前学修	日本の「教育の歴史」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	教育の歴史と目的 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	外国の「教育の歴史」について事後学修して下さい。			2.0
5	事前学修	「教育の目的」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	教育の目的 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	自分が考える教育の目的を生徒が達成するための「教育の方法」について事後学修して下さい。			2.0
6	事前学修	「詰め込み教育・ゆとり教育・脱ゆとり教育」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	教育の方法 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	「ゆとり教育の本来の目的」について事後学修して下さい。			2.0

7	事前学修	「オンライン（遠隔）授業」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教育の方法（1例目） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「オンライン（遠隔）授業における利点と懸念事項」について事後学修して下さい。	2.0
8	事前学修	「PBL（課題解決型学習）」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教育の方法（2例目） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「PBL（課題解決型学習）における利点と懸念事項」について事後学修して下さい。	2.0
9	事前学修	「生徒にとって良い教育の方法」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	生徒にとって良い教育の方法 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「他学生が考える生徒にとって良い教育の方法における利点と懸念事項」について事後学修して下さい。	2.0
10	事前学修	「理想的な教育の方法」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	理想的な教育の方法 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「自分が考える理想的な教育の方法における利点と懸念事項」について事後学修して下さい。	2.0
11	事前学修	「社会階層」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	日本の社会構造 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「貧困の連鎖」について事後学修して下さい。	2.0
12	事前学修	「夜間中学校」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	社会構造における教育の役割1 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「社会構造における夜間中学校の位置づけ」について事前学修して下さい。	2.0
13	事前学修	「夜間中学校の存在意義」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	社会構造における教育の役割2 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「幸福」について事後学修して下さい。	2.0
14	事前学修	「教育の役割」について事前学修してください。	2.0
	授業	教育の役割 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「他学生が考える教育の役割」について事後学修して下さい。	2.0
15	事前学修	「教育の理念」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教育の理念 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	教育原理を受講した上で、「教職に対する意欲や適性」について事後学修して下さい。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

試験：％ 小テスト：％ レポート：60％ 演習課題：40％ その他

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題・演習課題・質問について、次回の授業冒頭でその内容についてコメントする。

教科書	
参考書・Web サイト	<p>書名：新・教職のための教育原理 著者名：内海崎貴子 出版社：八千代出版</p> <p>書名：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p> <p>書名：高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p>
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	講義は資料を配布して行う。
担当教員の実務経験	2004 年から 2021 年まで、北海道の公立高校教員としての実務経験がある。また、定時制高校での勤務において、暴力行為・停学・不登校・中退・自傷行為・虐待事案等の様々な生徒指導上の問題への対応を行ってきた。さらに、高校教員として勤務しながら教育心理学に関わる研究を行い、そこで得た知見を教育現場にフィードバックし、日々生徒と向き合っていた。授業ではこれらの経験を生かした実践的・理論的な授業になるように努めている。

教育心理学 Educational Psychology

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP172
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		2 年	後期
先端経営学科		必修		2 年	後期
情報メディア学科		必修		2 年	後期
授業概要					
教育心理学に関する歴史的な変遷、児童・生徒の心身の発達過程やパーソナリティに関する学修を踏まえた児童・生徒を理解。さらに、学習理論や学習方法、教育評価を主体的に学修することで、教育現場に教育心理学的な観点を取り入れることができる能力を身に付ける。					
授業における学修の到達目標					
教育心理学的側面から幼児・児童・生徒の発達や理論の理解、発達を踏まえた学習過程や学習方法、評価における基礎的・基本的かつ実践的な知識・理解を身に付ける。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書から教育心理学への理解を深める			2
	授業	学校と教育心理学（教育心理学の領域、課題、役割、方法） 講義におけるグループ学習の仕方について			
	事後学修	予習の観点の復習 配布資料の振り返り			2
2	事前学修	第 2 講の講義の予習をノートに行う			2
	授業	第 2 回：発達の理論（発達の概念、発達段階、発達の諸理論）※児童を含む グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り			2
3	事前学修	第 3 講の講義の予習をノートに行う			2
	授業	第 3 回：乳幼児期の発達（身体、運動、認知、社会性の発達） グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り			2
4	事前学修	第 4 講の講義の予習をノートに行う			2
	授業	第 4 回：青年期の発達（青年期の意義、心理、行動） グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り			2
5	事前学修	第 5 講の講義の予習をノートに行う			2
	授業	第 5 回：学習の理論（学習の概念、条件付け、記憶） グループワークとグループディスカッション			
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り			2
6	事前学修	第 6 講の講義の予習をノートに行う			2
	授業	第 6 回：効果的な学習（動機づけ、学習指導法）			

		グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り	2
7	事前学修	第7講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第7回：パーソナリティの理解（パーソナリティの形成、理論、理解） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	ノートの整理 配布資料の振り返り	2
8	事前学修	第8講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第8回：知能と学力の理解（知能、知能測定の歴史、学力、知能と学力） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
9	事前学修	第9講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第9回：教育評価（方法、統計の基礎）	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
10	事前学修	第10講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第10回：不適応行動の理解（欲求と欲求不満、適応機制、不適切行動） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
11	事前学修	第11講の講義の予習をノートに行う	2
	授業	第11回：学校と教育相談（教育相談の考え方、不登校と教育相談） グループワークとグループディスカッション	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
12	事前学修	これまでの講義をノートで振り返る	2
	授業	第12回：心理療法 演習	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
13	事前学修	特別支援教育論の講義を振り返る	2
	授業	第13回：特別な支援を必要としている児童・生徒の理解（LD、ADHDへの支援） 演習	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
14	事前学修	特別支援教育論の講義を振り返る	2
	授業	第14回：特別な支援を必要としている児童・生徒の理解（自閉スペクトラム症への支援） 演習	
	事後学修	ノート整理 配布資料の振り返り	2
15	事前学修	14回の講義の振り返り	2

	授業	第15回：教育心理学の振り返り	
	事後学修	全講義のノート整理 配布資料の振り返り	2
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（ 50 %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（ 20 %） <input type="checkbox"/> レポート（ 0 %） <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題（ 30 %）※予習課題も含む <input type="checkbox"/> その他 [なし]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
理解度をみるために4回程度、課題をノートで提出してもらいます。ノートの内容に対し個別にフィードバックします。			
教科書	書名：「教職をめざす人のための教育心理学」, 著者名：福村出版, 出版社：978-4-571-20071-7, 備考：		
参考書・Web サイト	なし		
単位修得が望ましい科目	特になし		
備考	授業計画で教科書に記載されていない内容は、資料を配布して講義を行います。		
担当教員の実務経験	1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代には、常に教育心理学と実践をどのように結びつけていくことができるか考え、経験を積んできた。教員経験に基づき、教育心理学の各講義における理論的な内容が教育現場においてどのように結びついているかを学生に考えさせていくことに努める。		

教職概論 Outline of the Educational Profession

担当教員	渡邊 仁 (859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP170
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		選択		1 年	前期
先端経営学科		選択		1 年	前期
情報メディア学科		選択		1 年	前期
授業概要					
<p>-教師の仕事内容 -教師の役割 -教師としての進路選択</p> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が出会った教師が全ての教師ではない。そのため、教師の仕事内容及び役割の理解を通して、多角的に自身の教師像を捉え、教師としての進路選択を考える機会とする。さらに、教師として必要なものは何かを学ぶことで、教師としての職に対する自分の意欲や適正を考えるきっかけとする。</p>					
授業における学修の到達目標					
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	「良い教師」とはどういう教師のことかについて事前学修して下さい。			2.0
	授業	教師像・教育観 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	事前学習で挙げた教師が良い教師と考える「理由」について事後学修して下さい。			2.0
2	事前学修	令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の「大分類の項目」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	生徒指導上の問題 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果にある「高等学校中途退学等の事由」について事後学修して下さい。			2.0
3	事前学修	「主体的・対話的で深い学び」とはどういう学びなのかについて事前学修して下さい。			2.0
	授業	学習指導 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	生徒が「主体的・対話的で深い学び」となる授業はどういう授業なのかについて事後学修して下さい。			2.0
4	事前学修	「学級経営」の定義について事前学修して下さい。			2.0
	授業	学級経営 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	「学級の荒れ」の要因について、論文等で調べ、事後学修して下さい。			2.0
5	事前学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）が定義する「生徒指導」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	生徒指導 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）にある生徒指導の「2軸3類4層構造」について事後学修して下さい。			2.0

6	事前学修	「教育相談」の定義について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教育相談 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	生徒指導提要（改訂版）（令和4年12月公表）にある「教育相談の基本的な考え方」について事後学修して下さい。	2.0
7	事前学修	「進路指導」の定義について事前学修して下さい。	2.0
	授業	進路指導 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	中央教育審議会（2011）が定義する「キャリア教育」について事後学修して下さい。	2.0
8	事前学修	教師にとって「普遍的に必要とされる資質能力」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教師の資質能力 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	これからの時代において、教師にとって「新たに必要とされる資質能力」について事後学修して下さい。	2.0
9	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「総合的な探究の時間の目標」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	総合的な探究の時間 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「総合的な探究の時間の例」について事後学修して下さい。	2.0
10	事前学修	「特別支援教育の理念」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	特別支援教育 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「インクルーシブ教育」について事後学修して下さい。	2.0
11	事前学修	中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にある「特別活動の目標」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	特別活動 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「特別活動の例」について事後学修して下さい。	2.0
12	事前学修	学校教育法にある「高等学校の教職員（第60条）」について事前学修して下さい	2.0
	授業	チーム学校運営 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「スクールカウンセラーの業務内容」と「スクールソーシャルワーカーの業務内容」について事後学修して下さい。	2.0
13	事前学修	自分が居住している、もしくは応募希望の都道府県の「教員採用試験の試験内容」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教員採用試験 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「教員採用試験の対策方法」について事後学修して下さい。	2.0
14	事前学修	教育基本法にある「教員の職務の重要性（第9条第1項）」と「その身分（第9条第2項）」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	教師の地位・身分・待遇・研修 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	教員が「身分を尊重されている理由」について事後学修して下さい。	2.0

15	事前学修	自分が考える「理想の教師」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	理想の教師像 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「理想の教師」になるために何が必要かについて事後学修して下さい。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □試験：% □小テスト：% ■レポート：60% ■演習課題：40% □その他 []			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
レポート課題・演習課題・質問について、次回の授業冒頭でその内容についてコメントする。			
教科書			
参考書・Web サイト		書名：教職入門―教師への道 著者名：藤本典裕他 出版社：図書文化 書名：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書名：高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房	
単位修得が望ましい科目		特になし	
備考		授業では資料を配布して行う。	
担当教員の実務経験		2004 年から 2021 年まで、北海道の公立高校教員としての実務経験がある。また、定時制高校での勤務において、暴力行為・停学・不登校・中退・自傷行為・虐待事案等の様々な生徒指導上の問題への対応を行ってきた。さらに、高校教員として勤務しながら教育心理学に関わる研究を行い、そこで得た知見を教育現場にフィードバックし、日々生徒と向き合っていた。授業ではこれらの経験を生かした実践的・理論的な授業になるように努めている。	

教育制度論 Study of Educational Systems

担当教員	河合 宣孝(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP273
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		選択必修	2 年	後期	
先端経営学科		選択必修	2 年	後期	
情報メディア学科		選択必修	2 年	後期	
授業概要					
<p>この授業では、第一に、教育制度のしくみ等について教育基本法（現行法）を手がかりとして、制度の目的および中心理念である生涯にわたる学びと教育の機会均等について学び、その展開のありかたに深く関わる地方教育行政のしくみと教職員の制度について学びます。</p> <p>第二に、就学前教育、後期中等教育、高等教育に関する制度とそれらの領域における教育の実現に関わる政策と制度について学びます。</p> <p>第三に、制度の具体的展開である学校の経営について、学校・学級の運営やそれらの中心となる教育課程の経営について学びます。</p> <p>教育基本法や学校教育法をはじめとする関係法令や制度・施策が実際にどのように学校で運用され、いかされているのかという視点で、関係法令や制度・施策と教育の現場をつなぐことを考えながら学習を進めます。授業においては、学生による教科書の輪読を一つの柱にしており、プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションなどを実施します。</p>					
授業における学修の到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育基本法の理念がどのようにしくみや法律で実現され制度が運用されているかについて理解し、説明することができる。 2. 教育制度を支える様々な施策を実施する教育行政のしくみと実際について理解し、説明することができる。 3. 学校組織の実際、学校と地域の連携及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。 4. 「いじめ」や「不登校」をはじめとする学校・子どもをめぐる今日的課題について考察し、その解決方策について自分の考えを述べることができる。 					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認するとともに、教科書の4ページから9ページを読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。教科書巻末の教育基本法(現行法)に目を通す。			2.0
	授業	ガイダンス、教育制度を学ぶことの意義			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
2	事前学修	教科書の第1章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。			2.0
	授業	教育制度の目的			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
3	事前学修	教科書の第2章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。			2.0
	授業	生涯にわたる学び			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
4	事前学修	教科書の第3章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。			2.0
	授業	教育の機会均等			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0

5	事前学修	教科書の第4章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。「北海道教育行政執行方針」および「北海道の教育施策」に目を通す。	2.0
	授業	地方教育行政	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
6	事前学修	教科書の第5章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	教職員	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第6章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	就学前教育、第1講～第7講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第7章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	後期中等教育・高等教育	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第8章を読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。「第3期教育振興基本計画」に目を通す。	2.0
	授業	教育政策の計画化	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第9章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学校の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第10章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学級の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第11章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育課程の経営	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	事前配布プリントを読み、概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	学校運営に関する法規：学校教育法、校務分掌の実際、チーム学校等	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	事前配布プリントを読み概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	児童生徒に関する法規：いじめ防止対策推進法、教育機会確保法、障害者差別解消法等	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0

15	事前学修	事前配布プリントを読み、概要を掴み、疑問点等をまとめる。	2.0
	授業	地方教育行政の実際と今日的課題：公立高等学校配置計画等、第8講～15講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □定期試験 □小テスト（％）■レポート（30％）■演習課題（30％）■履修状況（授業参加など）（40％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。 課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する。			
教科書	書名：新・教育の制度と経営 [四訂版], 著者名：本図愛実・末冨 芳, 出版社：学事出版株式会社, 備考：		
参考書・Web サイト	古田 薫・山下晃一（2020）「法規で学ぶ教育制度」ミネルヴァ書房 青木栄一（2019）「教育制度を支える教育行政」ミネルヴァ書房 ・北海道教育委員会ホームページ「北海道教育行政執行方針」 (https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/156257.html) ・文部科学省ホームページ「第4期教育振興基本計画リーフレット」 (https://www.mext.go.jp/content/20230928-mxt_soseisk02-100000597_07.pdf) ・北海道教育委員会ホームページ「公立高等学校配置計画」		
単位修得が望ましい科目	「教育課程論」「教職概論」「教育原理」		
備考	教育職員免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に対応する。		
担当教員の実務経験	1986年から2021年まで34年間北海道立高校で教諭・教頭・校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような授業実践に努めている。法令・規則・通知等を教育現場で実際に運用して教育活動を行ってきた経験を生かして、学生に法令・規則・通知等を運用して豊かな教育活動を実践することのできる資質・能力を育むよう努めている。		

特別支援教育論 Study of Special Needs Education

担当教員	五浦 哲也(858 研究室)		単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
			2 単位	講義	○	CTP195
開講学科		種別		配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修		1・2 年	前期	
先端経営学科		必修		1・2 年	前期	
情報メディア学科		必修		1・2 年	前期	
授業概要						
<p>インクルーシブ教育の実現に向け、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識を学修し、障害種ごとの発達・心理・認知における特性や生活・学習における困難を理解し、支援についての課題に主体的に考え、判断し、表現する取組を通して教育現場に生きる実践力を育成する。</p>						
授業における学修の到達目標						
<p>1. 特別支援教育(意義・教育課程・法律・制度・対象となる障害・支援の方法)について理解する。 2. 特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の発達面・心理面の特性や学習上・生活上の困難と対応について理解する。</p>						
授業計画						
回数	授業、事前・事後学修					時間
1	事前学修	シラバスに従い、教科書通読				2
	授業	特別支援教育の理念と制度（制度の理念、母国語や貧困の問題等の教育的ニーズ） グループディスカッション				
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ				2
2	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り				2
	授業	小・中学校における特別支援教育の仕組み（小・中学校における実態、支援体制、個別の教育支援計画及び指導計画） グループディスカッション				
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ				2
3	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り				2
	授業	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際（特別支援学級と通級による指導の実際、障害種、教育課程） グループディスカッション				
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ				2
4	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り				2
	授業	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（障害種、特別支援学校、センター的役割、教育課程） グループディスカッション				
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ				2
5	事前学修	シラバスに従い、教科書通読				2

		前時の振り返り	
	授業	就学までの支援の仕組みとその実態（障害のある幼児期の心身。心理的特性、早期発見・早期支援、就学に向けての支援） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
6	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	注意欠陥多動性障害の理解と支援（定義、変遷、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
7	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	学習障害の理解と支援（医学的定義、教育的定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
8	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	自閉症の理解と支援（定義、変遷と診断基準、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
9	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	情緒障害の理解と支援（定義、選択性場面緘黙、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
10	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	言語障害の理解と支援（構音障害、吃音、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
11	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	視覚障害の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	

	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
12	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	聴覚障害の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
13	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	肢体不自由の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
14	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	病弱・身体虚弱の理解と支援（定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2
15	事前学修	シラバスに従い、教科書通読 前時の振り返り	2
	授業	知的障害の理解と支援（用語と定義、発達・心理・生活・学習の特性理解と支援、専門機関との連携） グループディスカッション	
	事後学修	配布資料による振り返り ノートによる講義内容のまとめ	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験（50%） ■ 小テスト（30%） □ レポート（0%）

■ 演習課題（20%）

□ その他 [なし]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回、課題を提出し、評価とコメントを入れて返却します。

教科書	書名：インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門, 著者名：大塚 玲, 出版社：萌文書林, 備考：2019年2月27日第2版第1刷発行
参考書・Web サイト	なし
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	1985年から京都市、北海道で公立小中学校教員の31年間勤務経験がある。教員経験において、特別支援学級、特別支援教育コーディネーター、市町の就学指導委員として8年間の経験がある。教員時代には、常に特別支援教育は、教育の原点と考え、授業づくりや生徒指導、教育相談などすべての教育活動に活かしてきた。教員経験に基づき、特別支援教育論の各講義における法令や理論的な内容が教育現場においてどのように活かしていくことができ

るかを学生に考えさせていくことに努める。

教育課程論 School Curriculum Studies

担当教員	河合 宣孝(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CTP275
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		2年	前期
先端経営学科		必修		2年	前期
情報メディア学科		必修		2年	前期
授業概要					
<p>テーマ：カリキュラム、学習指導要領の変遷、新しい学習指導要領の理念と内容について学ぶ</p> <p>わが国の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程やカリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、わが国の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには学習指導要領の変遷や新しい学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、今後の新しい学校教育の展開とその課題を考察する。授業においては、学生による教科書の輪読を一つの柱にしており、プレゼンテーションやグループワーク、ディスカッションなどを実施する。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>①教育課程に関する基本事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。</p> <p>②学習指導要領の変遷とその主な特徴を把握し、わが国の教育課程行政の仕組みを理解し、説明することができる。</p> <p>③新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べることができる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の第1章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	ガイダンス 教育課程の意義 教育課程の実際			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
2	事前学修	教科書の第2章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	教育課程編成の思想と構造 各自が学んだ教育課程について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
3	事前学修	教科書の第3章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	近代・現代日本の教育課程の歩み			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
4	事前学修	教科書の第4章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	教育課程の編成と諸要因			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
5	事前学修	教科書の第5章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の理念や改訂過程について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0

		る。	
6	事前学修	教科書の第 6 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の内容の把握	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第 7 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際 新学習指導要領の総則を読む、第 1 講～第 7 講のまとめ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第 8 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	特別支援教育の学習指導要領と教育課程編成の実際	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第 9 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程の関連 カリキュラム・マネジメントの要点	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第 10 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第 11 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育課程と評価	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第 12 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学力向上策とカリキュラム開発	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	教科書の第 13 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	新学習指導要領と教育課程の編成	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	教科書の第 14 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	国際学力調査の 21 世紀型「能力」の模索と教育課程改革	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
15	事前学修	教科書の第 15 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	様々な教育課程の改革、第 8 講～第 15 講のまとめ	

	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 □定期試験 □小テスト (%) ■レポート (30%) ■演習課題 (30%) ■履修状況 (授業参加など) (40%)			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。 課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する。			
教科書	書名：改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論, 著者名：古川治・矢野裕俊編著, 出版社：北大路書房, 備考：		
参考書・Web サイト	文部科学省 (2018) 「高等学校学習指導要領」 (平成 30 年 3 月告示) 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 (2018) 「新しい時代の教育課程 [第 4 版]」有斐閣		
単位修得が望ましい科目	「教職概論」「教育原理」「教育制度論」		
備考	教育職員免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法」に対応する。		
担当教員の実務経験	1986 年から 2021 年まで 34 年間北海道立高校で教諭・教頭・校長の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような授業実践に努めている。生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成・実施・評価等およびカリキュラム・マネジメントの実践を行ってきた経験を生かして、学生が教育課程の編成・実施・評価等およびカリキュラム・マネジメントを通じてより良い教育をを構想することのできる資質・能力を育むよう努めている。		

道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education

担当教員	日下部 憲一(非常勤)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2単位	講義	○	CTP285
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2年	前期	
先端経営学科		必修	2年	前期	
情報メディア学科		必修	2年	前期	
授業概要					
<p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。また、グループワーク、グループディスカッションや問題解決的な学習等にアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるとともに、毎回の授業で自己評価（授業の感想、わかったことや新たな発見、疑問点等）カードを配付回収し、次週の授業で前時の復習、疑問等に応える授業体制を組みながら教員としての資質能力の向上を目指す。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>1 道徳の意義や原理等をふまえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。</p> <p>1) 道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。</p> <p>2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。</p> <p>3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。</p> <p>4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>2 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。</p> <p>1) 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。</p> <p>2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。</p> <p>3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。</p> <p>4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。</p> <p>5) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。</p> <p>6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業全体の内容を把握する。			2.0
	授業	オリエンテーション及び道徳教育の意義、道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等）			
	事後学修	授業内容と課題レポート①をまとめる。			2.0
2	事前学修	教育勅語及びコールバーグの道徳性発達理論について把握する。			2.0
	授業	道徳教育の歴史（戦前と戦後）及び道徳の理論（本質、子供の道徳性の発達等）			
	事後学修	授業内容をまとめる。			2.0
3	事前学修	教科書等で道徳教育と道徳科の目標及び道徳科の内容について把握する。			2.0
	授業	道徳教育の実際1（道徳教育と道徳科の目標及び道徳科の内容）			
	事後学修	授業内容をまとめる。			2.0
4	事前学修	教科書等で指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方について把握する。			2.0
	授業	道徳教育の実際2（指導計画の作成及び道徳科の特質とその指導の在り方）			
	事後学修	授業内容をまとめる。			2.0
5	事前学修	教科書等で題解決的な学習やモラルジレンマ学習及び情報モラル等の現代的課題の指導について把握する。			2.0

	授業	道徳教育の実際3（アクティブ・ラーニングを位置づけた課題解決的な学習やモラルジレンマ学習等学習指導の多様な展開及び情報モラル等の現代的課題の指導）	
	事後学修	授業内容と課題レポート②をまとめる。	2.0
6	事前学修	教科書等で教材開発の創意工夫と道徳科に生かす教材について把握する。	2.0
	授業	道徳教育の実際4（教材開発の創意工夫と道徳科に生かす教材）	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
7	事前学修	教科書等で道徳科の評価について把握する。	2.0
	授業	道徳教育の実際5（道徳科の評価）	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
8	事前学修	読み物教材「おかあさんのせい求書」の内容を把握しその学習指導案を構想する。	2.0
	授業	道徳授業の実際1（アクティブ・ラーニングを位置づけた読み物教材「おかあさんのせい求書」の模擬授業）	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
9	事前学修	読み物教材「バスと赤ちゃん」の内容を把握しその学習指導案を構想する。	2.0
	授業	道徳授業の実際2（読み物教材「バスと赤ちゃん」の模擬授業と授業改善の視点）	
	事後学修	授業内容と課題レポート③をまとめる。	2.0
10	事前学修	与えられた複数の読み物教材の内容を把握し、その学習指導案を構想する。	2.0
	授業	学習指導案の研究と作成1（読み物教材による学習指導案の研究）	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
11	事前学修	選択した読み物教材の学習指導案をより深く構想する。	2.0
	授業	学習指導案の研究と作成2（読み物教材による研究結果から学習指導案の作成）	
	事後学修	授業内容をまとめ、ポスターセッション発表会に向け作成した学習指導案の発表内容を検討する。	2.0
12	事前学修	視聴覚教材による学習指導案の在り方について把握する。	2.0
	授業	学習指導案の研究と作成3（視聴覚教材による学習指導案の研究）	
	事後学修	授業内容をまとめ、共同研究による課題レポート④をまとめる。	2.0
13	事前学修	新聞教材による学習指導案の在り方について把握する。	2.0
	授業	学習指導案の研究と作成4（新聞教材による学習指導案の研究）	
	事後学修	授業内容をまとめ、共同研究による課題レポート⑤をまとめる。	2.0
14	事前学修	ポスターセッション発表会に向け準備する。	2.0
	授業	学習指導案の研究発表と意見交流（ポスターセッションによる発表会）	
	事後学修	授業内容をまとめる。	2.0
15	事前学修	14回の授業内容を確認し、最終課題レポートについて構想する。	2.0
	授業	道徳教育のまとめと展望（道徳の本質と子供の心の成長及び教育活動全体を通じた指導の在り方等）	
	事後学修	授業内容と最終課題レポート⑥をまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■試験：50 % ■課題レポート：30 %

■学習態度・発表：20 %

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

個人の課題レポートや共同研究の課題レポートについては、授業内でコメントする。また、試験結果の講評については、学

内の掲示板にて公表する。	
教科書	書名：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編, 著者名：文部科学省, 出版社：教育出版株式会社, 備考：
参考書・Web サイト	使用しない
単位修得が望ましい科目	なし
備考	日頃から書籍や新聞報道等を通して身近な教育問題に関心を持つとともに、事前・事後学修を適切に行い常に課題意識をもち授業に臨む。また、授業後適宜出す課題レポートは次週に必ず提出すること。
担当教員の実務経験	<p>道徳の教科科に伴い、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から道徳教科書を使った授業が行なわれている。下記の内容について実務経験がある。</p> <p>小学校道徳科教科書「新訂 新しい道徳」（令和2年発行 東京書籍株式会社） 編集協力委員として、教科書、教師用指導書、図書教材等についての内容検討、執筆及び校閲に当たった。</p> <p>中学校道徳科教科書「新訂 新しい道徳」（令和3年発行 東京書籍株式会社） 編集協力委員として、教科書、教師用指導書、図書教材等についての内容検討、執筆及び校閲に当たった。</p> <p>この実務経験を活かし、教育現場に求められる道徳教育及びその要となる道徳科の在り方等について理解を深めるとともに、教材研究や学習指導案の作成等に資する授業を行なっていく。</p>

教育方法論と総合的な学習の時間の指導法 Instructional Methodology and Teaching Methods of Period for

担当教員	椿 達 (854 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP291
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2 年	前期	
先端経営学科		必修	2 年	前期	
情報メディア学科		必修	2 年	前期	
授業概要					
<p>テーマ：教育方法学をしっかり学び、総合的な学習の時間の理念や変遷を学び、具体的な指導法を考える。</p> <p>これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、授業における指導技術と評価、授業研究、情報機器及び教材の活用など教育メディアの活用などについての有意義な考え方や方法・スキルなどを学ぶ。その上で総合的な学習（探究）の時間の意義や創設から現在までの経緯と先進的な実践例、指導計画の作成や模擬授業の演習等を通して指導上の留意点や効果的な指導法について学び、教師としての教育（授業）実践の基盤づくりに資するものとする。講義においてプレゼンテーション（5 分間スピーチ）やグループワークによる討議を実施する。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>① 教育方法学、特に授業のとらえ方と授業技法について学び、説明することができる</p> <p>② 「授業研究」についての知見や研究成果から、授業づくりの基本や授業計画や学習指導案の作成方法を習得して、実際に学習指導案を作成することができる。</p> <p>③ 総合的な学習（探究）の時間の意義や教育課程において果たす役割を資質・能力の育成の視点から理解し、具体的な指導について自分の考えを述べるができる。</p> <p>④ 総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成の考え方や方法、評価の考え方について学び、模擬授業やその検討を通して探究的な学習の時間の指導の留意点を理解するとともに、効果的な指導法について考察し、授業実践の基盤をつくる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の序章を読み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	ガイダンス 教育の技術（1）板書			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
2	事前学修	教科書の第 1 章第 1 節と第 2 節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	教育方法学を学ぶ 教育の技術（2）発問			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
3	事前学修	教科書の第 1 章第 3 節と第 4 節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	考える心理、学ぶ心理 教育の技術（3）個別指導・机間指導			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
4	事前学修	教科書の第 2 章第 1 節と第 2 節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	学習と授業（「わかる」と「できる」の意味）			

	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
5	事前学修	教科書の第2章第3節と第4節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	授業のとらえ方と授業技法 教育の技術(4) 授業における教師の役割	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
6	事前学修	教科書の第3章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	様々な授業様式 教育の技術(5) 教科用図書の使い方	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
7	事前学修	教科書の第3章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	学力観の変遷と学習力のとらえ方	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
8	事前学修	教科書の第4章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	授業づくりの基本と学習指導案 教育の技術(6-1) 学習指導案を作成する：形式を学ぶ	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
9	事前学修	教科書の第4章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	教育の現代化と教授理論(完全習得学習と「学び方」学習) 教育の技術(6-2) 学習指導案を作成する：わかる・できる授業を目指して	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
10	事前学修	教科書の第5章第1節と第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	メディアの活用と情報教育	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
11	事前学修	教科書の第5章第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の意義	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
12	事前学修	教科書の第5章第2節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	戦後の学習指導要領にみる総合的な学習	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
13	事前学修	教科書の第5章第3節と第4節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の教育課程と校内体制	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
14	事前学修	教科書の第6章第1節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0

	授業	総合的な学習の時間の指導計画・単元計画	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0
15	事前学修	教科書の第6章第2節と第3節を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2.0
	授業	総合的な学習の時間の学習指導と評価	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

定期試験 ■小テスト (10%) ■レポート (25%) ■演習課題 (35%) ■履修状況 (授業参加など) (30%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する場合もある。

教科書	書名：教科と総合学習のカリキュラム設計－パフォーマンス評価をどう活かすか、著者名：西岡加名恵 編著, 出版社：図書文化社, 備考：
参考書・Web サイト	木村優・岸野麻衣編「授業研究」新曜社 古藤泰弘「教育方法学の実践研究」教育出版 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年3月告示）」 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」
単位修得が望ましい科目	「教職概論」「教育原理」
備考	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」における「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に対応する。
担当教員の実務経験	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員（2011年から教頭）の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

ICT 活用の理論と実践 Theory and Practice in ICT Application

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義	○	CTP396
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		3 年	その他
先端経営学科		必修		3 年	その他
情報メディア学科		必修		3 年	その他
授業概要					
<p>教育現場における ICT（情報通信技術）について、歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解するとともに、ICT を有効に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。また情報社会を生きていくための情報活用能力について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけや ICT 活用の光と影について学ぶとともに、ICT を活用した効果的な教育実践についての事例研究を行い、授業における ICT 活用の方法、授業の準備、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用について考察する。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>(1) ICT（情報通信技術）の活用の意義と理論を理解する。 (2) ICT（情報通信技術）を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 (3) 生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の第 1 章～第 3 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	オリエンテーション 現代社会における ICT の役割と歴史的展開			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
2	事前学修	教科書の第 4 章・第 8 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	教師の ICT 活用指導力と先端技術の活用の教育実践（特に STEAM に焦点を当てて）			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
3	事前学修	教科書の第 6 章・第 11 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	個別最適な学びと特別支援教育における ICT 活用の実践			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
4	事前学修	教科書の第 10 章・第 12 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	「深い学び」を実現するための ICT の活用方法と遠隔授業の教育実践			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
5	事前学修	教科書の第 16 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	教科の資質・能力と情報活用能力を育成する基礎的な指導法			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
6	事前学修	教科書の第 17 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	ICT 活用の教育実践（特にプログラミング教育に焦点を当てて）			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2

		る。	
7	事前学修	教科書の第 18 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	情報モラル・情報セキュリティを育む教育実践	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
8	事前学修	教科書の第 14 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。	2
	授業	校務の情報化とデータの活用方法	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■小テスト (10%) ■レポート (25%) ■演習課題 (35%) ■履修状況 (授業参加など) (30%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期限までに提出し、採点や添削などの K R 情報を入れて返却する。

課題のダウンロードやアップロードは POLITE を利用する場合もある。

教科書	書名：ICT 活用の理論と実践, 著者名：稲垣忠・佐藤和紀編, 出版社：北大路書房, 備考：
参考書・Web サイト	学習指導要領、学習指導要領解説、各省庁や民間のシンクタンクが公表する報告書など
単位修得が望ましい科目	教育方法論と総合的な学習の時間の指導法、進路指導、教育課程論、教科教育法
備考	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」における「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」に対応する。
担当教員の実務経験	1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で教員 (2011 年から教頭) の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

特別活動論 Study of Special Activities

担当教員	渡邊 仁 (859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP286
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		2 年	前期
先端経営学科		必修		2 年	前期
情報メディア学科		必修		2 年	前期
授業概要					
<p>-特別活動の意義及び目標</p> <p>-特別活動の内容</p> <p>-特別活動の指導法</p> <p>自分が受けた教育が全ての教育ではない。また、自分が経験した特別活動が全ての特別活動ではない。そのため、特別活動の意義・目標・内容の理解を通して、多角的に特別活動を捉え、生徒にとって有意義な特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「特別活動の目標」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	特別活動の概要 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	中学校・高等学校における「特別活動の内容」について事後学修して下さい。			2.0
2	事前学修	集団活動における「利点と懸念事項」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	特別活動の意義及び集団活動 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月）解説 特別活動編にある「特別活動の教育活動全体における意義」について事後学修して下さい。			2.0
3	事前学修	高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）にある「ホームルーム活動の目標」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	ホームルーム活動の概要 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	ホームルーム活動の指導において「留意すべきこと」について事後学修して下さい。			2.0
4	事前学修	合意形成を図る話し合い活動における「指導のポイント」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	ホームルーム活動の指導計画 グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	集団を対象とした生活づくりにおいて、指導する際に「留意すべきこと」について事後学修して下さい。			2.0
5	事前学修	「研究発表の準備」について事前学修して下さい。			2.0
	授業	研究協議（ホームルーム活動） グループディスカッション・演習課題			
	事後学修	「研究協議で他学生が発表した内容」について事後学修して下さい。			2.0

6	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「生徒会活動の目標」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	生徒会活動の概要 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「生徒会活動の内容」について事後学修して下さい。	2.0
7	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 特別活動編にある「生徒会活動における指導上の留意事項」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	生徒会活動の指導計画 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	自分が通っていた高校の「生徒会活動」について事後学修して下さい。	2.0
8	事前学修	「研究発表の準備」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	研究協議（生徒会活動） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「研究協議で他学生が発表した内容」について事後学修して下さい。	2.0
9	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「学校行事の目標」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	学校行事の概要 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 特別活動編にある「学校行事を通して育成する資質・能力」について事後学修して下さい。	2.0
10	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「健康安全・体育的行事のねらいと内容」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	健康安全・体育的行事の計画 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 特別活動編にある「健康安全・体育的行事の具体的な例」について事後学修して下さい。	2.0
11	事前学修	「研究発表の準備」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	研究協議（健康安全・体育的行事） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「研究協議で他学生が発表した内容」について事後学修して下さい。	2.0
12	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事のねらいと内容」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	遠足（旅行）・集団宿泊的行事の計画1 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 特別活動編にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事の実施上の留意点」について事後学修して下さい。	2.0
13	事前学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事のねらいと内容」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	遠足（旅行）・集団宿泊的行事の計画2 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 特別活動編にある「遠足（旅行）・集団宿泊的行事の実施上の留意点」について事後学修して下さい。	2.0
14	事前学修	「研究発表の準備」について事前学修して下さい。	2.0

	授業	研究協議（遠足（旅行）・集団宿泊の行事） グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	「研究協議で他学生が発表した内容」について事後学修して下さい。	2.0
15	事前学修	「特別活動の意義と目標」について事前学修して下さい。	2.0
	授業	特別活動の意義と目標 グループディスカッション・演習課題	
	事後学修	特別活動論を受講した上で、「教職に対する意欲や適性」について事後学修して下さい。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

- 定期試験（ %） 小テスト（ %） レポート（60%）
 演習課題（40%）
 その他[]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題・演習課題・質問について、次回の授業冒頭でその内容についてコメントする。

教科書

参考書・Web サイト	書名：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房
	書名：中学校学習指導要領解説（平成 29 年 3 月告示） 特別活動編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房
	書名：高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） 著者名：文部科学省 出版社：東山書房
	書名：高等学校学習指導要領解説（平成 30 年 3 月告示） 特別活動編 著者名：文部科学省 出版社：東京書籍

単位修得が望ましい科目

なし

備考

なし

担当教員の実務経験

2004 年から 2021 年まで、北海道の公立高校教員としての実務経験がある。また、定時制高校での勤務において、暴力行為・停学・不登校・中退・自傷行為・虐待事案等の様々な生徒指導上の問題への対応を行ってきた。さらに、高校教員として勤務しながら教育心理学に関わる研究を行い、そこで得た知見を教育現場にフィードバックし、日々生徒と向き合っていた。授業ではこれらの経験を生かした実践的・理論的な授業になるように努めている。

生徒指導 Student Guidance

担当教員	五浦 哲也(858 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP288
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	1・2 年	前期	
先端経営学科		必修	1・2 年	前期	
情報メディア学科		必修	1・2 年	前期	
授業概要					
<p>生徒指導の意義を理解し、いじめ、不登校、暴力行為、喫煙、薬物乱用、万引き、学級崩壊、インターネット等の生徒指導諸問題に対し自己指導能力の育成を目指し指導計画に基づき組織的に校内外連携の理解や体罰防止、生徒懲戒等の法的理解に関する知識・技能を身に付ける。講義内容に関わるグループワークやディスカッションを通して学んだ内容を深めていく。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>1. 生徒指導の意義と全教育活動における計画や校内外連携の重要性について理解できる。 2. 生徒指導諸問題の対応について主体的に考え、判断・表現することでグループで解決策を見出すための技能を身に付けることができる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスやテキストの通読による概要把握			2
	授業	テキスト第1章 生徒指導の基本についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 プレゼンテーション（生徒指導に係る授業）についての説明、実演			
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り プレゼンテーション準備			2
2	事前学修	第2章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備			2
	授業	第2章 教師の姿についてパワーポイントに基づき対話形式による講義			
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り プレゼンテーション準備			2
3	事前学修	第3章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備			2
	授業	第3章 児童生徒理解についてパワーポイントに基づき対話形式による講義			
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料振り返り プレゼンテーション準備			2
4	事前学修	第4章の通読による概要把握 プレゼンテーション準備			2
	授業	第4章 生徒指導体制についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション			
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り			2
5	事前学修	第4章の通読による概要把握			2
	授業	第5章 教育相談についてパワーポイントに基づき対話形式による講義			

		学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
6	事前学修	第5章の通読による概要把握	2
	授業	第6章 子どもに自立を促す生徒指導の手法についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
7	事前学修	第6章の通読による概要把握	2
	授業	第6章 子どもに自立を促す生徒指導の手法についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
8	事前学修	第7章の通読による概要把握	2
	授業	第7章 生徒懲戒と体罰、出席停止についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
9	事前学修	第8章の通読による概要把握	2
	授業	第8章 少年非行についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ディスカッションノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
10	事前学修	第9章の通読による概要把握	2
	授業	第9章 いじめについてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
11	事前学修	第10章の通読による概要把握	2
	授業	第10章 不登校についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
12	事前学修	第11章の通読による概要把握	2
	授業	第11章 学級経営と授業についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
13	事前学修	第12章の通読による概要把握	2
	授業	第12章 多様な子どもたちについてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2

14	事前学修	第13章の通読による概要把握	2
	授業	第13章 キャリア教育についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	ノート整理 テキスト・配布資料の振り返り	2
15	事前学修	第14章の通読による概要把握	2
	授業	第14章 危機管理についてパワーポイントに基づき対話形式による講義 学生によるプレゼンテーションとディスカッション	
	事後学修	全講義内容ノート整理・確認 テキスト・配布資料の全内容の振り返り	2

成績評価の方法およびその基準

標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験 (50 %) ■ 小テスト (30 %) □ レポート (0 %)

■ 演習課題 (20 %)

□ その他 []

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の課題を確認し、評点とコメントを記載します。

教科書	書名：五訂版 入門生徒指導『生徒指導提要（改訂版）』を踏まえて、著者名：片山紀子、出版社：学事出版、備考：
参考書・Web サイト	中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版） 生徒指導提要
単位修得が望ましい科目	なし
備考	なし
担当教員の実務経験	1985年から京都市、北海道で31年間、公立小中学校教員の勤務経験がある。教員時代には、常に生徒指導理論や法令に即し、効果的な実践となるよう考え、経験を積んできた。教員経験に基づき、生徒指導の各講義における法令や理論的な内容が教育現場においてどのように結びついているかを学生に考えさせていくことに努める。

学校教育相談 School Counseling

担当教員	五浦 哲也(858 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP290
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	1・2 年	後期	
先端経営学科		必修	1・2 年	後期	
情報メディア学科		必修	1・2 年	後期	
授業概要					
<p>テーマ：学校教育相談の基礎理論と体験演習</p> <p>現在、不登校、いじめ、非行等、学校は多くの教育問題を抱えている。その渦中にある児童生徒はもちろん教師や保護者も戸惑い悩んでいる。児童生徒が学校生活で成長する過程で遭遇する諸問題には生徒指導はもちろんだが、教育相談・カウンセリングの果たす役割は非常に重要である。本科目では教職を目指す皆さんが児童生徒の話のいつでも聴ける知識や技術の基礎知識を学び、体験演習やグループワークを通して体得する。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>教職を目指す皆さんが、講義や演習、グループワークを通して学校という視点から、教育相談・カウンセリングについて理解でき、教師として必要とされる学校教育相談の基礎理論や技法の基礎を身につけることができる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し、授業全体の内容を把握する。			2.0
	授業	講義についてのガイダンス 構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第1章 学校教育における教育相談の意義と課題について理解する。			
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
2	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。			2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第2章 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章カウンセリング概論について理解する。			
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
3	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。			2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第3章 学校におけるカウンセリングについて理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章カウンセリング概論について理解する。			
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
4	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。			2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第4章 カウンセリングの基本技法について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章カウンセリング概論について理解する。			
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
5	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。			2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第5章 教育相談におけるアセスメントについて理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。確認テスト			
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0

6	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第6章 幼児期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
7	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第7章 児童期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
8	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第8章 思春期・青年期の発達課題と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第2章カウンセリングスキルについて理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
9	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第9章 いじめ問題への対応について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
10	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第10章 不登校（園）と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。確認テスト	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
11	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第11章 保護者支援と教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第3章青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
12	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第12章 学級担任が行う教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
13	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第13章 学校全体で進める教育相談について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
14	事前学修	本時のテーマについて内容を確認し、教科書を読んで内容を把握する。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第14章 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する。ピアヘルパーハンドブック第1章～第3章についての理解を深める。	
	事後学修	本時の学習内容を教科書で整理し、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0

15	事前学修	今期の学習成果を教科書で確認し、整理して理解しておく。	2.0
	授業	構成的グループエンカウンターやグループワークによる体験する。第15章 専門機関との連携について理解する。確認テスト	
	事後学修	今期、学んだ内容を整理し、教職課程での学びにつながるようにする。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 ■ 定期試験（50％） ■ 確認テスト（20％） □ レポート（ ）％ ■ 演習課題（20％） ■ その他（演習への参加回数や態度）（10％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
講義終了時に提示した課題に対し、評点とコメントを記載する。			
教科書	書名：教育相談の理論と方法, 著者名：会沢信彦, 出版社：北樹出版, 備考：定価：1800円+税		
	書名：ピアヘルパーハンドブック, 著者名：日本教育カウンセラー協会, 出版社：図書文化, 備考：定価：1500円+税		
参考書・Webサイト	日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社		
単位修得が望ましい科目	生徒指導、特別支援教育		
備考	教科書の利用については、語彙の理解や重要な視点を中心に理解し、内容を把握してほしい。知識の蓄積にとどまらず実践的な技能習得に向けて自ら考え、判断、表現できるように努めて欲しい。		
担当教員の実務経験	五浦 哲也 1985年から京都市、北海道で公立小中学校教員の31年間勤務経験がある。教員経験において、教員時代から個別の教育相談や予防開発的な教育相談に取り組んできた。教育相談に関する知識・技能を授業づくりや生徒指導、特別支援教育などすべての教育活動に活かしてきた。教員経験に基づき、教育現場においてどのように活かしていくことができるかを学生に考えるとともに実践力を身に付けていくよう努める。		

進路指導 Career Guidance

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	講義	○	CTP395
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		3 年	その他
先端経営学科		必修		3 年	その他
情報メディア学科		必修		3 年	その他
授業概要					
<p>テーマ：進路指導とキャリア教育の理念と意義を学び、その教育実践について考察する。</p> <p>本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・演習・発表等、履修者の参加を重視した方法で行う。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>①進路指導・キャリア教育の意義や原理、政策的な経緯と現状について理解し、説明することができる。</p> <p>②進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、説明することができる。</p> <p>③進路指導・キャリア教育の実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての教育への意欲を高めるとともに、指導の基盤をつくり、教育実践について自分の考えを述べることができる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書の「プロローグ」を読み、教科書の著書の執筆の意図などをまとめる。			2
	授業	キャリア教育の意義			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
2	事前学修	教科書の第 1 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	キャリア教育の理論			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
3	事前学修	教科書の第 2 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	進路指導とキャリア教育			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
4	事前学修	教科書の第 3 章を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	キャリア教育の推進と評価			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
5	事前学修	教科書の第 4 章（第 16～20 話）を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	キャリア教育の方法と技術			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2
6	事前学修	教科書の第 4 章（第 21～25 話）を読み概要を掴み、疑問点などをまとめる。			2
	授業	キャリア教育の組織と推進			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2

		る。	
7	事前学修	参考書を読み、課題（予習）プリントに取り組む。	2
	授業	キャリア・カウンセリングの理論と方法	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2
8	事前学修	参考書を読み、課題（予習）プリントに取り組む。	2
	授業	高等学校におけるキャリア教育・総括テスト	
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■小テスト（10%） ■レポート（25%） ■演習課題（35%） ■履修状況（授業参加など）（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

課題のダウンロードやアップロードはPOLITEを利用する場合もある。

教科書	書名：キャリア教育フォー ビギナーズ 「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか？, 著者名：藤田晃之, 出版社：実業之日本社, 備考：
参考書・Web サイト	・文部科学省（2011）『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版. ・文部科学省（2012）『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版.
単位修得が望ましい科目	なし
備考	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」における「進路指導の理論及び方法」に対応する。
担当教員の実務経験	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員（2011年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

教育実習 I Practice Teaching 1

担当教員	五浦 哲也(858 研究室), 椿 達(854 研究室), 別所 正一(118 研究室), 渡邊 仁(859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		1 単位	実習	○	CTP391
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		4 年	前期・後期
先端経営学科		必修		4 年	前期・後期
情報メディア学科		必修		4 年	前期・後期
授業概要					
<p>「教育実習」は、教師を志望する学生が、講義などを通して習得した理論や技能を学校教育の実際場面へ適用し、実践的な体験をする学習活動である。大学の講義では得られない教育を行う諸能力を身に付けるために、実践を通して集中的に取り組む学習になる。</p> <p>高等学校の教員免許の取得希望者は2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者は3週間以上、教育実習を行なうことになる。「教育実習 I」では、そのための事前指導（事前学習）と事後指導（事後学習）を行う。</p> <p>教育実習のねらいは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という専門職とは何かについて、体験する。 2. 大学で学んだ知識・技能を実践上で生かす。 3. 大学では得られない実践的な教育技術を身に付ける。 4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。 5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。 <p>「教育実習 I」事前指導（事前学習）では、所期のねらいを達成するように準備、訓練を行うための学習となる。「教育実習 I」事後指導（事後学習）では、「教育実習 II/教育実習 III」の終了後に、そこでの学習のまとめ及び教育についての見つけなおしを行い、その報告を行う。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>事前指導：教育実習並びに学校教育活動に関する基礎的・基本的事項について理解を深め、教育実習に向けての心構え、課題意識を養う。模擬授業などの実習を行う。</p> <p>事後指導：教育実習を振り返り、教育実践を通して学んだ教育活動についてその工夫・改善、向上のあり方に気付けさせ、さらに、教育実践に対する自覚と意欲を強化する。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。			2.0
	授業	1 教育実習の意義 2 教員に求められる資質 3 教育実習に臨むにあたっての心構え・マナー			
	事後学修	教育実習の概要をまとめ、理解を深める。			2.0
2	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。			2.0
	授業	4 教育実習の内容（1） 授業実習			
	事後学修	教育実習の内容をまとめ、理解を深める。			2.0
3	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。			2.0
	授業	5 教育実習の内容（2） 特別活動等の指導			
	事後学修	教育実習の内容をまとめ、理解を深める。			2.0
4	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。			2.0
	授業	6 教育実習生の日			

	事後学修	教育実習の1日の概要を理解し、理解を深める。	2.0
5	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	7 事前準備 8 教育実習を終えるにあたってグループワーク	
	事後学修	教育実習の準備を整理し、今後に備える。	2.0
6	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(1) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
7	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(2) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
8	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(3) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
9	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(4) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
10	事前学修	4年生の実習報告会に参加し、質疑をして、教育実習の理解を深める。	2.0
	授業	模擬授業(5) 模擬授業を体験し、本時の授業の運営を試みる。その後、生徒役の学生と相互に協議する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	授業者、参加者双方とも、本時の体験を振り返り、本番の実習に備える。	2.0
11	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(1) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
12	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(2) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
13	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(3) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
14	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0
	授業	実習報告会(4) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
15	事前学修	教育実習の成果をまとめ、発表資料を作成する。	2.0

	授業	実習報告会(5) 教育実習の体験をまとめ、3年生や教員の前で発表し、質疑応答する。プレゼンテーション、グループワーク	
	事後学修	質疑応答や教員のコメントを参考にして、あらためて、教育実習の反省をする。	2.0
成績評価の方法およびその基準			
次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 <input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート：80% <input type="checkbox"/> 演習課題： % <input checked="" type="checkbox"/> その他：20% [模擬授業の実施、協議の進行、記録、参加や教育実習報告会での報告]			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
模擬授業における指導案や授業運営について個別指導を行う。			
教科書			
参考書・Web サイト		「教育実習 64 の質問」寺崎、黒澤、別府監修 学文社	
単位修得が望ましい科目		関連科目：教育実習 II/教育実習 III に連動している。	
備考		その他：事後指導は後期に行う場合がある。	
担当教員の実務経験		<p>椿 達 1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員(2011年から教頭)の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁 2004年から2021年まで17年間、北海道立高校で工業(機械)の教員の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>別所正一 1980年から2018年まで38年間、北海道立高校で商業の教員(教頭職6年、校長職9年)の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p>	

教育実習Ⅱ Practice Teaching 2

担当教員	椿 達(854 研究室), 五浦 哲也(858 研究室), 別所 正一(118 研究室), 渡邊 仁(859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	CTP392
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中
先端経営学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中
情報メディア学科		必修		4 年	夏期又は冬期集中
授業概要					
<p>「教育実習Ⅱ」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び高等学校の教科「情報」「商業」「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験します。「教育実習Ⅰ」と密接に関連した学習である。</p> <p>教育実習のねらいは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。 2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。 3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。 4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。 5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。 <p>実習期間は、高校の教員免許の取得希望者の場合、2 週間以上、中学校の教員免許の取得希望者の場合、3 週間以上だが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、実習を行う。事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければならない。</p>					
授業における学修の到達目標					
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。			2.0
	授業	教育実習校での実習に関するオリエンテーションを受ける。			
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ自覚する。			2.0
2	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
3	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
4	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
5	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
6	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			

	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
7	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
8	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
9	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
10	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
11	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
12	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
13	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
14	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
15	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容をレポートにまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：30% □演習課題： %

■その他 70% [(教育実習日誌, 実習高等学校からの出席簿・評価表、「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価する。)]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業における「ねらい」「発問」「板書」「ワークシート」「評価」の在り方について学生の考えを聞きながら質の向上にむけ個別に指導する。一度指導案を書いてきてもらい、指導案の書き方の視点を個別に指導する。

教科書	
参考書・Web サイト	岩本俊郎ほか編 (2017) 『新 教育実習を考える[改訂版]』北樹出版
単位修得が望ましい科目	教育実習 I
備考	特になし
担当教員の実務経験	椿 達

	<p>1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也</p> <p>1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁</p> <p>2004年から2021年まで17年間、北海道立高校で工業（機械）の教員の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>別所正一</p> <p>1980年から2018年まで38年間、北海道立高校で商業の教員（教頭職6年、校長職9年）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p>
--	---

教育実習Ⅲ Practice Teaching 3

担当教員	椿 達(854 研究室), 五浦 哲也(858 研究室), 別所 正一(118 研究室), 渡邊 仁(859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	CTP393
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		選択	4 年	夏期又は冬期集中	
先端経営学科		選択	4 年	夏期又は冬期集中	
情報メディア学科		選択	4 年	夏期又は冬期集中	
授業概要					
<p>「教育実習Ⅲ」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び中学校の教科「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験する。「教育実習Ⅰ」と密接に関連した学習である。</p> <p>教育実習のねらいは次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。 2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。 3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。 4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。 5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。 <p>実習期間は、中学校の教員免許の取得希望者の場合、3週間以上だが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、実習を行う。</p> <p>事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければならない。</p>					
授業における学修の到達目標					
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。			2.0
	授業	教育実習校での実習に関するオリエンテーションを受ける。			
	事後学修	オリエンテーションの内容をまとめ自覚する。			2.0
2	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
3	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
4	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
5	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。			2.0
6	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。			2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。			

	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
7	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
8	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
9	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
10	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
11	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
12	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
13	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
14	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容を教育実習日誌にまとめる。	2.0
15	事前学修	教育実習校のスケジュールを確認し、準備をする。	2.0
	授業	教育実習校のスケジュールに従い現場実習を行う。	
	事後学修	実習内容をレポートにまとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験： % □小テスト： % ■レポート：30% □演習課題 ■その他：70% [教育実習日誌、実習高等学校（中学校）からの出席簿・評価表。「教育実習I」と関連させ、総合的に評価します。]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業における「ねらい」「発問」「板書」「ワークシート」「評価」の在り方について学生の考えを聞きながら質の向上にむけ個別に指導します。一度指導案を書いてきてもらい、指導案の書き方の視点を個別に指導する。

教科書

参考書・Web サイト

富村誠ほか編（2020）『すぐに役立つ 教育実習のエッセンス』（学術図書出版社）

単位修得が望ましい科目

教育実習Ⅰ

備考

特になし。

担当教員の実務経験

椿 達

1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験

	<p>が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>五浦哲也 1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。</p> <p>渡邊 仁 2004年から2021年まで17年間、北海道立高校で工業（機械）の教員の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>別所正一 1980年から2018年まで38年間、北海道立高校で商業の教員（教頭職6年、校長職9年）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p>
--	---

教職実践演習（中・高） Practical Seminar for the Teaching Profession

担当教員	椿 達(854 研究室), 五浦 哲也(858 研究室), 別所 正一(118 研究室), 渡邊 仁(859 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	実習	○	CTP394
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	4 年	後期	
先端経営学科		必修	4 年	後期	
情報メディア学科		必修	4 年	後期	
授業概要					
<p>本科目は、教職課程のいわば集大成とでもいうべき科目である。講義と模擬授業（授業研究を含む）、外部講師による教育現場の実態を知る講演会を通して、授業と学習指導の実践的指導力（ICT の活用を含む）、教員の職務や責任、生徒理解・生徒指導とホームルーム（学級）経営などについての知識を整理し、今日の教育（社会）問題について考察し、討論し、大学における教師養成の最終段階としての力量の形成と各自のこれからの課題を明らかにしていく。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>教職課程の総まとめとして今までの学びを振り返り、教員として必要とされる資質・能力を身に付けることができる。また、社会人としての基礎的・汎用的な能力を身に付けることができる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスを確認し授業の全体の内容を把握する。			2.0
	授業	ガイダンス・授業研究（検討会）の進め方とファシリテーターの役割について			
	事後学修	本時の学習内容を確認し、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
2	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	教育課程と学習指導要領に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
3	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	教育の方法と技術（授業）に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
4	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	生徒理解と特別支援教育に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
5	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	教員の職務と責任に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
6	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	生徒理解と教育相談に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
7	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	予防・開発的な生徒指導に関する講義とグループワーク			
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。			2.0
8	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。			2.0
	授業	教員としての資質向上に関する講義とグループワーク			

	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
9	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究1（テーマ：授業の方略と方策）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
10	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究2（テーマ：授業の目標と評価）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
11	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究3（テーマ：アクティブ・ラーニング）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
12	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究4（テーマ：板書・発問・個別指導）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
13	事前学修	本時のテーマについて内容を確認する。	2.0
	授業	模擬授業の実施と授業研究5（テーマ：ICT活用の理論と実践）問題基盤学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
14	事前学修	今までの内容を総括し、講演を意欲的に聴けるようにする。	2.0
	授業	外部講師による講演（教育現場の実情と教師に求められる資質・能力）協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習	
	事後学修	本時の内容をまとめ、次回からスムーズに参加できるようにする。	2.0
15	事前学修	ポートフォリオを整理し、授業に備える。	2.0
	授業	講義のまとめ・ポートフォリオの完成と提出 デイスカッション グループワーク	
	事後学修	学んだ内容を整理し、まとめる。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

レポート

その他 100%[協議の進行、記録や参加の状況、模擬授業の実施状況（ICT活用を含む）、教職実践演習ポートフォリオ]

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業では、改善ポイントを簡潔にフィードバックする。

講義における討論では、学生相互の考えを認めつつ、さらに深めるための発問により思考・判断力の柔軟性を培う。

教科書

参考書・Web サイト

講義ごとに紹介する。

単位修得が望ましい科目

教育実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

備考

特になし

担当教員の実務経験

椿 達

1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で数学の教員（2011年から教頭）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。

五浦哲也

1985年から31年間、京都市及び北海道の公立小中学校で教員経験がある。教務部や研修部及び教育実習生の担当経験を活かし、教育実習を通して学生が主体的かつ深い学びができるよう実践に即した授業づくりに努めている。

	<p>渡邊 仁 2004年から2021年まで17年間、北海道立高校で工業（機械）の教員の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p> <p>別所正一 1980年から2018年まで38年間、北海道立高校で商業の教員（教頭職6年、校長職9年）の経験が在り、教師を目指す学生たちの教職の土台となるような実践的な授業づくりに努めている。</p>
--	--

情報科教育法 I Teaching Methods of School Subjects (Information Science) 1

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CTP276
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2 年	前期	
先端経営学科		必修	2 年	前期	
情報メディア学科		必修	2 年	前期	
授業概要					
<p>高等学校の共通教科情報科及び専門教科情報科の授業を担当するために最低限必要な事項、すなわち、教科の目標、科目の編成、学習内容、それらの取扱い等について、学習指導要領解説情報編をもとに確認します。特に、共通教科情報科は必修教科であるため、教科目標、科目編成、学習内容については情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて確認していきます。</p> <p>また、学習指導計画の作成を行う上で拠り所となる事項（観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT 活用と関連付けて確認していきます。これらの知識は情報科教育法 II の履修につながるものです。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>高等学校の共通教科情報科及び専門教科情報科について、わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科の目標、科目の編成、学習内容等を説明できるようになることを目指します。さらに、学習内容を指導するうえでの留意点を説明できるようになることを目指します。</p> <p>また、学習指導案を作成する上で拠り所となる事項（観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT 活用と関連付けて説明できるようになることを目指します。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導要領解説情報編の第 1 部、第 1 章第 1 節に目を通しておきましょう。			2
	授業	ガイダンス及び学習指導要領改訂の経緯と基本方針			
	事後学修	授業で配布する確認問題に解答してください。			2
2	事前学修	「教育の情報化に関する手引き - 追補版 -」第 1 章「社会的背景の変化と教育の情報化」に目を通しておきましょう。			2
	授業	初等中等教育における情報教育の変遷と情報教育 情報教育の中での共通教科情報科の位置づけ			
	事後学修	Worksheet の内容をまとめておきましょう。			2
3	事前学修	学習指導要領解説情報編の第 1 部、第 1 章に目を通しておきましょう。			2
	授業	共通教科情報科の教科目標と科目構成			
	事後学修	Worksheet の内容をまとめておきましょう。			2
4	事前学修	学習指導要領解説情報編の第 1 部、第 2 章第 1 節の構成を確認しておきましょう。			2
	授業	「情報 I」の科目目標 内容とその取扱いの読み取り方 教員研修用教材の確認			
	事後学修	Worksheet の内容をまとめておきましょう。			2
5	事前学修	学習指導要領解説情報編の第 1 部、第 2 章第 1 節 2 の(1)、(2)に目を通しておきましょう。			2
	授業	「情報 I」 (1) 情報社会の問題解決 (2) コミュニケーションと情報デザイン			
	事後学修	Worksheet の内容をまとめておきましょう。			2

6	事前学修	学習指導要領解説情報編の第1部、第2章第1節2の(3)、(4)に目を通しておきましょう。	2
	授業	「情報Ⅰ」 (3) コンピュータとプログラミング (4) 情報通信ネットワークとデータの活用	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
7	事前学修	学習指導要領解説情報編の第1部、第2章第2節1、及び2の(1)、(2)に目を通しておきましょう。	2
	授業	「情報Ⅱ」の科目目標 (1) 情報社会の進展と情報技術 (2) コミュニケーションとコンテンツ	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
8	事前学修	学習指導要領解説情報編の第1部、第2章第2節2の(3)、(4)、(5)に目を通しておきましょう。	2
	授業	「情報Ⅱ」 (3) 情報とデータサイエンス (4) 情報システムとプログラミング (5) 問題発見・解決の探求	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
9	事前学修	学習指導要領解説情報編の第1部、第3章に目を通しておきましょう。	2
	授業	共通教科情報科の各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
10	事前学修	学習指導要領解説情報編の第2部、第1章、及び第2章第1節から第12節に目を通しておきましょう。	3
	授業	専門教科情報科改訂の趣旨及び要点 専門教科情報科目標と内容構成	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	1
11	事前学修	学習指導要領解説情報編の第2部、第3章に目を通しておきましょう。	2
	授業	専門教科情報科の各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
12	事前学修	学習指導要領解説情報編の中から、主体的・対話的で深い学びに関連する部分を確認しておきましょう。	2
	授業	学習指導のデザイン	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
13	事前学修	「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」を確認しておきましょう。	2
	授業	授業設計における目標設定と観点別学習状況の評価	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
14	事前学修	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に目を通しておきましょう。	2
	授業	学習評価のデザイン	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2
15	事前学修	年間指導計画・単元の指導計画・本時の学習指導案について作成の目的と記述内容について調べておきましょう。	2
	授業	授業計画と学習指導案	
	事後学修	Worksheetの内容をまとめておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準	
<p>次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。</p> <p>■ 定期試験 (50%) ■ 小テスト (25%) ■ レポート (25%)</p> <p>□ 演習課題 (%) □ その他 [%]</p>	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	
<p>小テストは授業内に解答・解説を行います。レポートは提出後の授業内に適宜コメントします。</p> <p>定期試験に関しては、回収後にポイントをLMSで解説します。</p>	
教科書	書名：高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編, 著者名：文部科学省, 出版社：開隆堂出版, 備考：
参考書・Webサイト	鹿野利春, 高橋参吉, 西野和典(著, 編集)：情報科教育法 実教出版(2022) その他Webサイトについては、適宜、授業内で紹介します。
単位修得が望ましい科目	情報系, メディア系基礎科目
備考	共通教科, 専門教科を問わず、情報科においては、本学における専門教科の内容と強く関連する項目が多くあります。受講者はすでにそれらの内容については概ね理解できているものとして、本講では詳細に扱いません。理解できていない、もしくはこれまでに学習していない場合には、その内容を独学しながら受講する覚悟が求められます。
担当教員の実務経験	実務経験なし

情報科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Information Science) 2

担当教員	山北 隆典(139 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP277
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		2 年	後期
先端経営学科		必修		2 年	後期
情報メディア学科		必修		2 年	後期
授業概要					
<p>情報科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、共通教科「情報」の授業を対象とし、ICT を活用した実習中心の指導を行うための指導案の作成方法と授業の進め方を体験的に学習します。</p> <p>教材研究、教材作り、学習指導案の作成・検討にグループワークで取り組み、学習指導案作りのポイントを確認します。さらに、学習指導案に基づいた模擬授業を体験し、授業改善の視点について議論します。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>ICT を活用した実習中心の実践的な授業に関する指導計画を立案するための基本的な考え方、配慮すべき事項を説明できるようになることを目指します。</p> <p>教科目標の達成に向けた授業を展開するために指導方法、評価方法を工夫し、実践していくために求められるスキルや態度を説明できるようになることを目指します。</p> <p>指導案作成、模擬授業を振り返り、授業を改善するためのポイントを説明できるようになることを目指します。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導要領解説 情報編 の 22 ページから 40 ページの内容をよく読んで、目標及び学習内容を確認しておきましょう。			2
	授業	ガイダンス：情報科教育法Ⅰの内容確認 共通教科情報科の目標及び学習内容の確認			
	事後学修	授業の内容をまとめておきましょう。			2
2	事前学修	教科書「第 1 章 情報社会と私たち」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。			2
	授業	「情報社会と私たち」に関する実習授業			
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。			2
3	事前学修	教科書「第 2 章 メディアとデザイン」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。			2
	授業	「メディアとデザイン」に関する実習授業			
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。			2
4	事前学修	教科書「第 3 章 システムとデジタル化」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。			2
	授業	「システムとデジタル化」に関する実習授業			
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。			2
5	事前学修	教科書「第 4 章 ネットワークとセキュリティ」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。			2
	授業	「ネットワークとセキュリティ」に関する実習授業			
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。			2
6	事前学修	教科書「第 5 章 問題解決とその方法」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。			2

	授業	「解決案の検討」に関する実習授業	
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。	2
7	事前学修	Excel の基本的な操作方法, Excel による関数の利用方法とグラフの作成方法を確認しておきましょう。	2
	授業	「モデル化とシミュレーション」に関する実習授業	
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。	2
8	事前学修	教科書「第 6 章 アルゴリズムとプログラミング」に目を通しておきましょう。不明点は各自調査しておきましょう。また, Excel から Visual Basic でプログラミングする方法を確認しておきましょう。	2
	授業	「プログラミングの方法」に関する実習授業	
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。	2
9	事前学修	探索と整列のアルゴリズムを確認しておきましょう。	2
	授業	「探索と整列のプログラム」に関する実習授業	
	事後学修	ワークシートを完成させておきましょう。レポートを作成し提出しましょう。	2
10	事前学修	各自がこれまで体験した実習授業から「本時の指導案」を作成し, 授業で参照できるように準備しておきましょう。	3
	授業	「本時の指導案」の作成 (グループ活動)	
	事後学修	グループの「本時の指導案」を協働でまとめましょう。	1
11	事前学修	各自で「本時の指導案」に沿った配布資料, 板書計画の案を準備しておきましょう。	1
	授業	配布資料, 板書計画等も含めた「本時の指導案」の完成 (グループ活動)	
	事後学修	グループの「本時の指導案 (配布資料等も含む)」を協働で完成させましょう。	3
12	事前学修	各自で「模擬授業」を想定し, 問題点をまとめておきましょう。	1
	授業	グループ内「模擬授業」と「本時の指導案 (配布資料等も含む)」の改善 (グループ活動)	
	事後学修	グループ内での「模擬授業」から「本時の指導案 (配布資料等も含む)」の問題点を整理し, 改善シートを提出しておきましょう。	3
13	事前学修	「本時の指導案 (配布資料等も含む)」を確認しておきましょう。	2
	授業	「模擬授業」, もしくは指導案発表資料の作成 (グループ活動)	
	事後学修	「模擬授業」で得た知見, もしくは発表用資料を提出しておきましょう。	2
14	事前学修	「模擬授業」, もしくは指導案発表の準備をしておきましょう。	2
	授業	「模擬授業」, もしくは指導案の発表 (グループ活動)	
	事後学修	「模擬授業」, もしくは指導案の発表について, 感想, 反省点をまとめておきましょう。	2
15	事前学修	検討会の準備をしておきましょう。	2
	授業	「模擬授業」, もしくは指導案の発表についての検討会 (グループ活動), 及び総合演習 (振り返り)	
	事後学修	総合演習の結果も参考に, 検討会で得た他のグループからの知見も含めて, 以降の参考になるように指導案作成のポイントをまとめておきましょう。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。

定期試験 (%) 小テスト (%) レポート (20%)

演習課題 (20%) その他 [模擬授業 : 25% 総合演習 : 35%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート、演習課題については、提出後に講評を行います。教材研究・指導案作成・模擬授業などの演習については、終了後に授業内で問題提起や助言を行います。総合演習については、終了後に LMS で講評を行います。

教科書	書名：情 I 705 最新情報 I，著者名：編修・執筆：萩谷昌己，編修：渡辺美智子，執筆：西野和典ほか，出版社：実教出版，備考：
参考書・Web サイト	文部科学省：高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 情報編 開隆堂出版(2010) 鹿野利春, 高橋参吉, 西野和典(著, 編集)：情報科教育法 実教出版(2022) その他 Web サイトについては、適宜、授業内で紹介します。
単位修得が望ましい科目	原則、「情報科教育法 I」を受講済みであることを履修の条件とします。 (わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科「情報」の目標、科目の編成、指導内容等を説明できること、学習指導要領の内容を理解していること、学習指導計画を作成する上で拠り所となる事項について ICT 活用と関連付けて説明できることを受講の前提としているからです。)
備考	単なる知識伝達の授業ではありません。グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションが中心となりますので、授業への積極的な参加態度が求められます。
担当教員の実務経験	実務経験なし

商業科教育法 I Teaching Methods of School Subjects (Business Science) 1

担当教員	別所 正一(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP283
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2 年	前期	
先端経営学科		必修	2 年	前期	
情報メディア学科		必修	2 年	前期	
授業概要					
<p>テーマ：商業科教員としての実践的指導力の基礎づくりを目指す。</p> <p>商業科教員として高い実践力を有するために教科指導と生徒指導の研究を進める。特に教科「商業」の基礎的な科目、総合科目、四つの分野の科目構成、目指す能力や内容、指導する際の留意点及び学習評価等について学習する。また、基礎科目、総合科目、四分野の科目から内容の一部を短時間授業として、具体的な事例を取り入れた指導を実践する。</p> <p>講義演習では、アクティブ・ラーニング（主に PBL、ディスカッション、プレゼンテーション等）手法を取り入れる。</p>					
授業における学修の到達目標					
商業科教員とし実践的な教科指導力を向上を図る。内容では、商業に関する教育内容を体系的に分類し、それぞれの学習分野についての基礎的・基本的な知識と技術を習得する。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	シラバスの内容の確認と学習指導要領改訂の内容を把握する			2.0
	授業	ガイダンス、学習指導要領改訂とは何かをテーマにグループ内発表等で理解を深める			
	事後学修	学習指導要領改訂の内容をグループ内発表結果をまとめ理解を深める			2.0
2	事前学修	科目「ビジネス基礎」を精読し目標、ねらい、内容等を把握する			2.0
	授業	基礎科目（ビジネス基礎）の内容等の概観と指導上の留意点			
	事後学修	科目「ビジネス基礎」の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める			2.0
3	事前学修	科目「ビジネス基礎」の短時間授業に向けた教材研究をする			2.0
	授業	基礎科目（ビジネス基礎）の具体的事例を踏まえた指導の実践（グループワーク・ディスカッション）			
	事後学修	授業を終えての自己評価、批評等をまとめる			2.0
4	事前学修	マーケティング分野を精読し目標、ねらい、内容等を把握			2.0
	授業	マーケティング分野の内容等の概観と指導上の留意点			
	事後学修	マーケティング分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める			2.0
5	事前学修	マーケティング分野の短時間授業に向けた教材研究をする			2.0
	授業	マーケティング分野の具体的事例を踏まえた指導の実践（グループワーク・ディスカッション）			
	事後学修	授業を終えての自己評価、批評等をまとめる			2.0
6	事前学修	マネジメント分野を精読し目標、ねらい、内容等を把握する			2.0
	授業	マネジメント分野の内容等の概観と指導上の留意点			
	事後学修	マネジメント分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める			2.0
7	事前学修	マネジメント分野の短時間授業に向けた教材研究をする			2.0
	授業	マネジメント分野の具体的事例を踏まえた指導の実践（グループワーク・ディスカッション）			
	事後学修	授業を終えての自己評価、批評等をまとめる			2.0

8	事前学修	会計分野を精読し目標、ねらい、内容等を把握する	2.0
	授業	会計分野の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	会計分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
9	事前学修	会計分野の短時間授業に向けた教材研究をする	2.0
	授業	会計分野の具体的事例を踏まえた指導の実践 (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	授業を終えての自己評価、批評等をまとめる	2.0
10	事前学修	ビジネス情報分野を精読し目標、ねらい、内容等を把握する	2.0
	授業	ビジネス情報分野の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	ビジネス情報分野の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
11	事前学修	ビジネス情報分野の短時間授業に向けた教材研究をする	2.0
	授業	ビジネス情報分野の具体的事例を踏まえた指導の実践 (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	授業を終えての自己評価、批評等をまとめる	2.0
12	事前学修	総合科目（課題研究）を精読し目標、ねらい、内容等を把握する	2.0
	授業	総合科目（課題研究）の内容等の概観と指導上の留意点	
	事後学修	総合科目（課題研究）の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
13	事前学修	総合科目（ビジネス・コミュニケーション）を精読し目標、ねらい、内容等を把握する	2.0
	授業	総合科目（ビジネス・コミュニケーション）の内容等の概観と指導上の留意点（グループワーク・ディスカッション）	
	事後学修	総合科目（ビジネス・コミュニケーション）の指導上の留意事項等をまとめ理解を深める	2.0
14	事前学修	学習評価についての資料を収集する	2.0
	授業	学習評価と「指導と評価」の一体化について (グループワーク・ディスカッション)	
	事後学修	学習評価についての資料の整理とまとめをする	2.0
15	事前学修	学習指導についての資料を収集する	2.0
	授業	職業、進路、キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の在り方、レポート審査、講評等	
	事後学修	学習指導の資料整理とまとめをする	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

定期試験（10%） 小テスト（ %） レポート（ 30 %）

演習課題（30 %）

その他 [模擬授業 30%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

個人発表講評、教材開発指導助言、PBL等のまとめ講評、課題レポートに講評を記入して返却する。

教科書	書名：商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する、著者名：日本商業教育学会、出版社：実教出版株式会社、備考：本冊は、商業科教育法Ⅰで購入し商業科教育法Ⅱでも引き続き使用する
参考書・Web サイト	○履修時に購入した上記の冊子及び高等学校学習指導要領解説商業編を本講義使用する。 ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編～購入または文部科学省 Web からダウンロード可 ○書名・版：高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 商業編（2019/3/10 発行）

	<p>著者名：文部科学省 発行所：実教出版 ISBN：978-4-407-34863-7</p> <p>・商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する：履修者は全員購入すること ○関係資料や課題は、単元毎に適宜配布予定</p>
単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	<p>1981年から2019年まで、公立高等学校で専門教科の教員として教科指導や生徒指導に携わる。</p> <p>2004年から2015年までは管理職（教頭、校長）として、学校経営・管理運営及び教職員の教育指導に携わる。教員として教材開発や授業評価等の研究を実際の授業に生かしてきた。本講では、実務経験を踏まえ、個に応じた授業計画、教材研究の重要性、授業評価の必要性などを履修学生とともに研究を進め、対応力の高い教科指導と生徒指導の実践に生かしている教育を実施する。</p>

商業科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Business Science) 2

担当教員	別所 正一(118 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP284
開講学科		種別		配当年次	開講時期
システム情報学科		必修		2 年	後期
先端経営学科		必修		2 年	後期
情報メディア学科		必修		2 年	後期
授業概要					
<p>テーマ：商業科教員としての実践的指導力の基礎づくりを目指す。</p> <p>商業教育は「ビジネス」の学習を通して、学習者の望ましい人間形成を目指し、産業社会の発展に有為な人材の育成を目的としている。このような趣旨を踏まえて、商業専門科目の内容等とその指導法及び指導技術等を教育現場の課題や問題点を意識しながら、学習指導案、教材研究、模擬授業により進める。</p> <p>講義演習では、アクティブ・ラーニング（主に PBL、ディスカッション、プレゼンテーション等）手法を取り入れる。</p>					
授業における学修の到達目標					
商業科教員として重要な知識・技術と指導内容、指導方法等の資質の向上を図り、時代に即した望ましい模擬授業の実践と研究に取り組むことができる。					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導の方法、形態等の資料を収集する			2.0
	授業	学校、生徒の実態等を踏まえて学習指導の意義と在り方			
	事後学修	学習指導についての資料の整理とまとめをする			2.0
2	事前学修	学習指導案の書式や書き方などの資料を収集する			2.0
	授業	学習指導案（授業計画案）の作成の実際			
	事後学修	学習指導案作成の留意点等をまとめる			2.0
3	事前学修	各分野で活用できる情報機器等及び教材の事例等を収集する			2.0
	授業	情報機器及び教材の効果的な活用法の研究			
	事後学修	次回以降のために活用できる情報機器等及び教材の具体的事例をまとめる			2.0
4	事前学修	マーケティング分野の科目「マーケティング」の学習指導案を作成する(P46~P54)			2.0
	授業	科目「マーケティング」の学習指導案の検討、修正、改善等を図る			
	事後学修	学習指導案を完成させる			2.0
5	事前学修	科目「マーケティング」の教材に必要な資料を収集する			2.0
	授業	科目「マーケティング」の学習内容を踏まえた教材等の研究			
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする			2.0
6	事前学修	科目「マーケティング」の模擬授業に向けたシミュレーションをする			2.0
	授業	科目「マーケティング」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)			
	事後学修	自己評価、相互評価、講評等をまとめる			2.0
7	事前学修	マネジメント分野の科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案を作成する(P68~P75)			2.0
	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案の検討、修正、改善等を図る			
	事後学修	科目「ビジネス・マネジメント」の学習指導案を完成させる			2.0
8	事前学修	科目「ビジネス・マネジメント」の教材に必要な資料を収集する			2.0
	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の学習内容を踏まえた教材等の研究			

	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
9	事前学修	科目「ビジネス・マネジメント」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「ビジネス・マネジメント」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0
10	事前学修	会計分野の科目「簿記」の学習指導案を作成する(89~P95)	2.0
	授業	科目「簿記」の学習指導案の検討, 修正, 改善等を図る	
	事後学修	科目「簿記」の学習指導案を完成させる	2.0
11	事前学修	科目「簿記」の教材に必要な資料を収集する	2.0
	授業	科目「簿記」の学習内容を踏まえた教材等の研究	
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
12	事前学修	科目「簿記」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「簿記」の模擬授業の実践 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0
13	事前学修	ビジネス情報分野の科目「情報処理」の学習指導案を作成する(P124~P131)	2.0
	授業	科目「情報処理」の学習指導案の検討, 修正, 改善等を図る	
	事後学修	学習指導案を完成させる	2.0
14	事前学修	科目「情報処理」の教材に必要な資料を収集する	2.0
	授業	科目「情報処理」の学習内容を踏まえた教材等の研究	
	事後学修	学習指導案の内容と教材等の整合性の確認をする	2.0
15	事前学修	科目「情報処理」の模擬授業に向けたシミュレーションをする	2.0
	授業	科目「情報処理」の模擬授業の実践, レポート審査, 講評等 (ディスカッション・グループワーク)	
	事後学修	自己評価, 相互評価, 講評等をまとめる	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□試験：20% □小テスト： % ■レポート：10% □演習課題：30%

■その他[模擬授業（指導案, 教材研究を含む）40%]

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題レポートに講評を記入して返却する

教科書	書名：商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する, 著者名：日本商業教育学会, 出版社：実教出版株式会社, 備考：本冊は、商業科教育法Ⅰで購入し商業科教育法Ⅱでも引き続き使用する
参考書・Web サイト	○商業科教育法Ⅰで購入した冊子を本講義で引き続き使用する。Ⅰで購入した者はⅡで購入しないこと。 ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 商業編～購入又は文部科学省HPで、ダウンロード可 商業科教育法Ⅰで使用したものを引き続き使用 ・商業科教育論 21世紀の商業教育を創造する : 商業科教育法Ⅰで購入した冊子を引き続き使用する ○関係資料や課題は、単元毎に適宜配布予定

単位修得が望ましい科目	特になし
備考	特になし
担当教員の実務経験	<p>1981年から2019年まで、公立高等学校で専門教科の教員として、教科指導や生徒指導に携わる。</p> <p>2004年から2015年までは管理職（教頭、校長）として、学校経営・管理運営及び教職員の教育指導に携わる。教員として教材開発や授業評価等の研究を実際の授業に生かしてきた。本講では、実務経験を踏まえ、個に応じた授業計画、教材研究の重要性、授業評価の必要性などを履修学生とともに研究を進め、対応力の高い教科指導と生徒指導の実践に生かしている教育を実施する。</p>

数学科教育法 I Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 1

担当教員	松井 伸也(224 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義		CTP278
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		選択	2 年	前期	
先端経営学科		選択	2 年	前期	
情報メディア学科		選択	2 年	前期	
授業概要					
<p>数学の対象を「教える」場合、「定義」を理解することが必要です。定義は論理的な文章で記述されています。様々な数学的事実を明確にし、迷いのない形で「自分の数学」を構成する上での基礎作りを行いたいと思います。これが、将来教員となり数学を教えるときに必須の条件となります。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>数学の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	指導要領を確認する。			2
	授業	数学とは			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
2	事前学修	高校の教科書、特に整式、方程式など、を復習する。			2
	授業	初等関数の背景 — 方程式、多項式など			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
3	事前学修	高校の教科書、特に三角関数、指数関数、対数関数など、を復習する。			2
	授業	初等関数の背景 — 三角関数、指数関数、対数関数など			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
4	事前学修	高校の教科書、特に微積分、を復習する。			2
	授業	微分積分の背景			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
5	事前学修	高校の教科書、特に整式、方程式など、を復習する。			2
	授業	複素数の背景			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
6	事前学修	指導要領を確認する。			2
	授業	集合に関する事			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
7	事前学修	指導要領を確認する。			2
	授業	論理に関する事			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
8	事前学修	指導要領を確認する。			2
	授業	数学 I, A の内容			
	事後学修	講義で与えた課題を行う。			2
9	事前学修	指導要領を確認する。			2

	授業	数学 II, B の内容	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
10	事前学修	指導要領を確認する。	2
	授業	数学 III, C の内容	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
11	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	三角関数の定義について模擬講義を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
12	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	2次方程式について模擬講義を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
13	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	微分の定義について模擬講義を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
14	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	積分の定義について模擬講義を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2
15	事前学修	模擬講義の準備	2
	授業	複素数の定義について模擬講義を行う。	
	事後学修	講義で与えた課題を行う。	2

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■定期試験 (60%) ■レポート (40%)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

適宜質問に答えます。

教科書	
参考書・Web サイト	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校学習指導要領 (最新版)、高等学校学習指導要領 (最新版) (文部科学省) ● 中学校学習指導要領解説 (最新版)、高等学校学習指導要領解説 (最新版) (文部科学省ホームページ) ● 石川剛郎 著「論理・集合・数学語」共立出版 ● 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版
単位修得が望ましい科目	特にありません。
備考	特にありません。
担当教員の実務経験	<p>高校教員 (数学, 3 年間, 非常勤)</p> <p>この経験を通じ学生への対応方法の例を挙げます。</p>

数学科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 2

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP279
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2 年	後期	
先端経営学科		必修	2 年	後期	
情報メディア学科		必修	2 年	後期	
授業概要					
<p>テーマ：中学校や高校での数学の授業を担当するための実践力を養う</p> <p>数学科教育法Ⅰで学んだことを基礎にして、授業方法や評価法、指導計画の作成や教育機器の活用法、学習指導案の作成などについて学び、演習（学習指導案の作成、模擬授業、グループ討議）を通して、高等学校において数学の授業を担当するために求められる実践的指導力を養成する。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>学習指導要領に示された高等学校数学の目標や内容を理解するとともに、基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を立てることができる。中学校や高等学校での数学の授業実践力を模擬授業等を通して養う。模擬授業後に学生相互の意見交換を通して、授業観察の目を鍛え、自分の授業を改善していく力と意識を高める。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	教科書を読み、高校数学での既習内容を確認する。			2.0
	授業	講義のガイダンス、数学の授業方法（方略と方策）について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
2	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	数学科の学習指導要領の変遷と現在と次期の内容について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
3	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	授業目標と評価・学習評価について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
4	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	教育機器の活用について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
5	事前学修	事前に配布された資料を読み、疑問点などをまとめる。			2.0
	授業	学習指導案の作成について			
	事後学修	講義において学んだ事項をノートに整理し、講義中に実施した演習内容を振り返るなど学びを深める。			2.0
6	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。			2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：2次関数）			
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。			2.0
7	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。			2.0

	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：図形と計量）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
8	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅰ：データ分析）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
9	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学A：場合の数と確率）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
10	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学A：整数）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
11	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅱ：図形と方程式）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
12	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学Ⅱ：微積分）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
13	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学B：数列）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
14	事前学修	模擬授業の学習指導案と板書計画を作成する。	2.0
	授業	模擬授業の実施（数学B：ベクトル）	
	事後学修	模擬授業の検討会の内容を振り返り、できていたことや課題になったことをまとめる。	2.0
15	事前学修	今までの模擬授業の検討会記録を読み返し、どのようなことが課題となってきたか、グループ別に整理してみる。	2.0
	授業	本講義を振り返り、議論を通して、学びを深める。	
	事後学修	数学科における授業の学習指導案の作成の基本をマスターできたかどうか、確認する。	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■総括テスト（50%） ■演習・課題（35%） ■履修状況（授業参加など）（15%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

板書計画や模擬授業の指導案を課題とする。

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

検討会の記録はPOLITEを利用して提出する。

教科書	書名：NEXT 数学Ⅰ 数Ⅰ，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学A 数A，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学Ⅱ 数Ⅱ，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
	書名：NEXT 数学B 数B，著者名：岡部 恒治 ほか，出版社：数研出版，備考：
参考書・Web サイト	● 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）
	● 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年3

	月告示) 解説 (すべて文部科学省ホームページからダウンロード可)
単位修得が望ましい科目	「教職概論」「教育原理」「教育課程論」「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」
備考	なし
担当教員の実務経験	1986年から2015年まで29年間、北海道立高校で教員(2011年から教頭)の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

数学科教育法Ⅲ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 3

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP280
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	3 年	前期	
先端経営学科		必修	3 年	前期	
情報メディア学科		必修	3 年	前期	
授業概要					
<p>数学科教育法Ⅲは、中学校数学科の目標・内容を踏まえて、教材内容や数学的活動等について学び、もって実践的な指導力の基礎を身につけることを目標とする。そのため、中学校数学に関する教材研究を通じた教材観の習得と授業実践の理解することはもちろん、小学校や高等学校との連続性を踏まえて教材を俯瞰することのできる力量を育むとともに、中学校の数学の教員に求められる基礎的、基本的な資質・能力の習得を目指す。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>中学校数学の目標・学習内容、数学的活動等について理解し、中学校数学の内容に関する教材観を確立するとともに、学習指導案や板書計画の作成、模擬授業を通して授業実践の力量を習得する。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導要領（平成 29 年告示）解説 数学編の第 1 章と第 2 章を読む。			2.0
	授業	中学校数学科の目標及び内容、中学生の発達段階、中学校数学の方向性を理解し、グループワークによる問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
2	事前学修	中学数学の内容（数と式：1～2 年）の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容（数と式：1～2 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
3	事前学修	中学数学の内容（数と式：2～3 年）の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容（数と式：2～3 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
4	事前学修	中学数学の内容（図形：1～2 年）の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容（図形：1～2 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
5	事前学修	中学数学の内容（図形：2～3 年）の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容（図形：2～3 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
6	事前学修	中学数学の内容（関数：1～2 年）の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容（関数：1～2 年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
7	事前学修	中学数学の内容（関数：2～3 年）の予習課題に取り組む。			2.0

	授業	中学数学の内容（関数：2～3年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
8	事前学修	中学数学の内容（データの活用：1～2年）の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容（データの活用：1～2年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
9	事前学修	中学数学の内容（データの活用：2～3年）の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容（データの活用：2～3年）を小中高の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにして、グループワークにより問題解決の方途を検討する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
10	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（数と式）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
11	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（図形）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
12	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（関数）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
13	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：1年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
14	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：2年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
15	事前学修	学習指導案（略案）と板書計画の作成	2.0
	授業	模擬授業（データの活用：3年）を実施し、授業研究（検討会）を通して、授業の方略と方策について考察する。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

□定期試験 ■小テスト（10%） ■レポート（25%） ■演習課題（35%） ■履修状況（授業参加など）（30%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

板書計画や模擬授業の指導案を課題とする。

期限までに提出し、採点や添削などのKR情報を入れて返却する。

検討会の記録はPOLITEを利用して提出する。

教科書

書名：これからの数学1，著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：教科書番号706

書名：これからの数学2，著者名：岡部恒治ほか，出版社：数研出版，備考：教科書番号806

	書名：これからの数学3, 著者名：岡部恒治ほか, 出版社：数研出版, 備考：教科書番号 906
参考書・Web サイト	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示） ● 中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）解説、高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）解説 （すべて文部科学省ホームページからダウンロード可）
単位修得が望ましい科目	「数学科教育法Ⅰ」「数学科教育法Ⅱ」「教職概論」「教育原理」「教育課程論」「教育方法論と総合的な学習の時間の指導法」「進路指導」
備考	なし
担当教員の実務経験	1986 年から 2015 年まで 29 年間、北海道立高校で教員（2011 年から教頭）の経験が在り、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術の指導を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義に努めている。

数学科教育法Ⅳ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) 4

担当教員	笹山 智司(306 研究室)	単位数	授業形態	アクティブ・ラーニング	ナンバリング
		2 単位	講義	○	CTP281
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		選択	3 年	後期	
先端経営学科		選択	3 年	後期	
情報メディア学科		選択	3 年	後期	
授業概要					
<p>数学科教育法Ⅳは、数学科教育法Ⅲで習得した数学教育についての知識・理解・技能を踏まえ、コンピュータを活用した教材開発力を鍛え、もって数学授業の基礎的な実践的指導力の習得を目標とします。そのため、コンピュータを活用した授業の構想と考察し、関数グラフ・ソフトを用いて教科書の内容に基づく教材開発を行い、実践的な授業技術の習得を目指します。</p>					
授業における学修の到達目標					
<p>中学数学の目標・学習内容、数学活動等について理解する。中学数学の学習における関数グラフ・ソフトの活用法を理解し、関数グラフ・ソフトを活用する力量を習得するとともに、関数グラフ・ソフトを用いた教材開発やそれを活用した授業設計ができるようになる。</p>					
授業計画					
回数	授業、事前・事後学修				時間
1	事前学修	学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 数学編の第 1 章と第 2 章を読む。			2.0
	授業	数学科教育法Ⅳの学習目標、関数グラフソフトの意義とその実例、グループワークによる問題解決			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
2	事前学修	中学数学の内容(数と式：1～2 年)の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2 年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
3	事前学修	中学数学の内容(数と式：2～3 年)の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2 年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
4	事前学修	中学数学の内容(図形：1～2 年)の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容(数と式：1～2 年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
5	事前学修	中学数学の内容(図形：2～3 年)の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容(図形：2～3 年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
6	事前学修	中学数学の内容(関数：1～2 年)の予習課題に取り組む。			2.0
	授業	中学数学の内容(関数：1～2 年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。			
	事後学修	授業の復習・宿題レポート			2.0
7	事前学修	中学数学の内容(関数：2～3 年)の予習課題に取り組む。			2.0

	授業	中学数学の内容(関数：2～3年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
8	事前学修	中学数学の内容(データの活用：1～2年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(データの活用：1～2年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
9	事前学修	中学数学の内容(データの活用：2～3年)の予習課題に取り組む。	2.0
	授業	中学数学の内容(データの活用：2～3年)を初等・中等教育の連続性を踏まえて理解するとともに、課題を明らかにしてグループワークによる問題解決。	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
10	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (関数教材) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
11	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (幾何教材) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
12	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (代数教材) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
13	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	関数グラフソフト Geogebra (統計教材) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
14	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	教材の作成(数学ソフト教材の開発) (1) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0
15	事前学修	POLITE 掲載のレジユメの予習	2.0
	授業	教材の作成(数学ソフト教材の開発) (2) グループワークによる問題解決	
	事後学修	授業の復習・宿題レポート	2.0

成績評価の方法およびその基準

次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。

■ 定期試験 40% ■ 小テスト 30% ■ レポート 30% □ 演習課題 なし □ その他 なし

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験、小テストの解説、レポートに対するコメントによる

教科書	書名：中学数学1, 著者名：, 出版社：教育出版, 備考：
	書名：中学数学2, 著者名：, 出版社：教育出版, 備考：
	書名：中学数学3, 著者名：, 出版社：教育出版, 備考：
参考書・Web サイト	中学校学習指導要領解説(数学)
単位修得が望ましい科目	数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
備考	なし
担当教員の実務経験	なし

